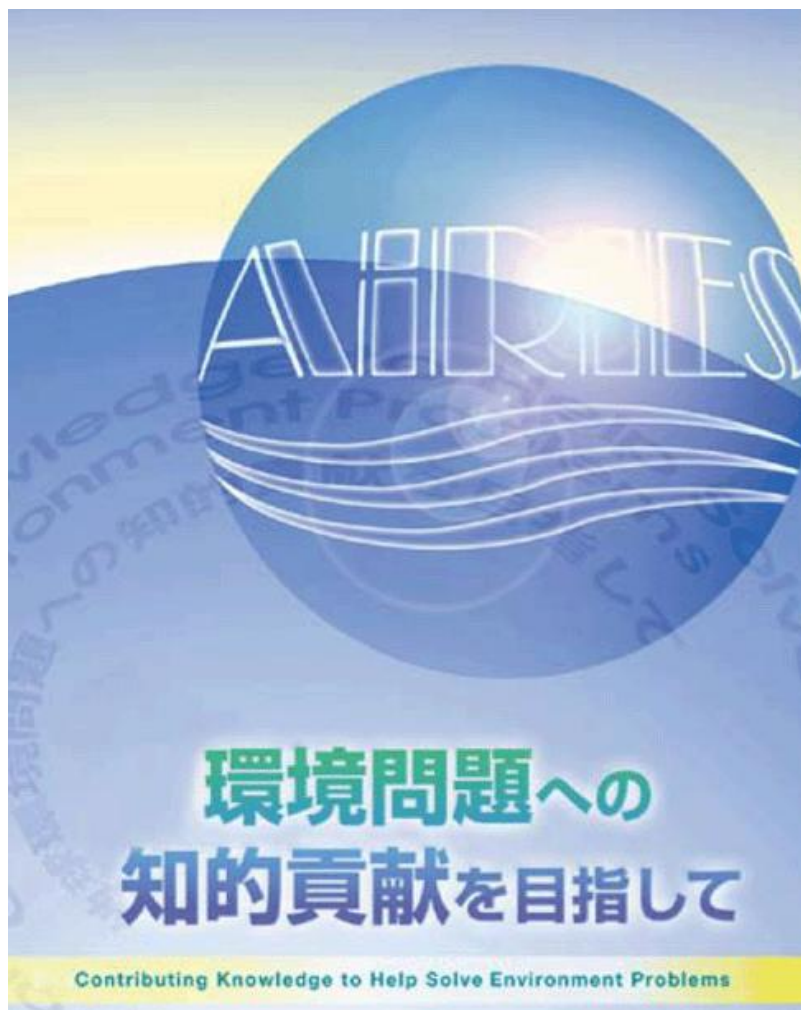


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2026年6月 第360号



CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆(151)「こんな不思議な体験をしたこと、ありませんか？」
鶴田 治雄(元環境研究総合推進費 プログラムオフィサー)
- 3 業務報告

協会業務報告

徳田博保(専務理事)

ゴールデンウィークは、JTB の調査結果※¹によると、遠出する人はおよそ2割にとどまり、多くの人は自宅やその周辺で過ごす傾向にありました。中には、煙をくゆらせ、琥珀色のグラスを傾けながら、テレビを眺めたり読書にふけったりする「のんびりとした休日」を楽しむ人もいたかもしれません。しかし、そうした風景は過去のものになりつつあります。

喫煙については、1960 年代には日本の成人男性の喫煙率は8割を超えていましたが、現在では25%程度にまで低下しています※²。健康影響に関する科学的知見が蓄積し、さらに受動喫煙という「他者への影響」が広く認識されるようになったことで、喫煙は個人の嗜好にとどまらず、社会全体で是正すべき課題として位置づけられるようになりました。英国では喫煙率が1割程度にまで落ち込んでいる中、去る4月には2009年1月1日以降に生まれた人へのタバコ販売を禁止する法律が成立しました。

この「他者への影響」という、すなわち「外部不経済」を抑制しようとする考え方や、法律成立後に英国の保健・社会保障大臣が語った「予防は治療に勝る」という理念は、排出者の責任を問う環境政策と軌を一にするものです。そして、同様の発想は、今や飲酒文化にも及びはじめています。

「昔は成人男性のほとんどが毎日酒を飲んでいたらしい」などと昔話のように語られる未来が、すぐそこまで来ているのかもしれません。WHO は 2023 年1月、「健康に安全な飲酒量は存在しない」との声明を出しました。これを受け、「酒は百薬の長」や「赤ワインはポリフェノールを含んでいるので健康に良い」といった従来の言説は、説得力を失いつつあります。諸外国に目を向ければ、アイルランドでは酒瓶にがんりリスクの警告表示を義務付けることが決定し、カナダやタイでも同様の規制が

検討されるなど、飲酒をめぐる環境は着実に変化しています。

こうした動きの背景には、特に若い世代の価値観の変容もあるのでしょう。深酒によって自制心を失うことや、翌日のパフォーマンスが低下することを「タイパ(時間対効果)」の悪化と捉え、敢えて飲まないことを選ぶ「ソバークュリアス(sober curious)」というライフスタイルが広がりつつあるようです。タバコも酒も、「嗜み」から「健康を害し、時間を浪費し、他者へ負荷をかけるもの」として再定義されようとしています。愛煙家だけでなく愛飲家にとっても、少し窮屈な時代がやってくるのは時間の問題なのかもしれません。

さて、協会業務関連では、「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」の令和8年度新規採択課題の審査が行われています。環境研究総合推進費関係では、環境省が推進費研究に求める「行政要請研究テーマ(行政ニーズ)」の策定に向けて、環境省担当者とプログラムアドバイザーが意見交換を進めています。また、トップダウンの大型研究である戦略研究開発プロジェクトの形成に向け、プロジェクトリーダー候補者に対する支援が行われています。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

※¹ 2026 年ゴールデンウィーク(4月25日～5月7日)の旅行動向 | ニュースルーム | JTB グループサイト

https://www.jtbcorp.jp/jp/newsroom/2026/04/02_jtb_2026gw-travel-trend-outlook.html

※² 令和6年国民健康・栄養調査(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001603146.pdf>



「こんな不思議な体験をしたこと、ありませんか？」

鶴田 治雄（元環境研究総合推進費 プログラムオフィサー）

私事でもう何十年も前の話で恐縮ですが、大学 1 年生になった時、或るスポーツクラブに入部しました。走るだけでなくぶつかり合う激しいことではひけをとらないそのスポーツの練習はとてもきついものでした。高校時代は別のスポーツ部に入っていましたが、卒業後 1 年間浪人したので、体力はぐっとおちていました。そして、2 週間近い夏合宿を山中湖畔で過ごしました。早朝のランニング、午前と午後の炎天下のグラウンドでの練習は、とてもきついものでしたが、なんとか脱落することなく、無事に終わってホッとしました。

家に戻った翌日、もう練習もないのでうれしくなって、久しぶりで薄いタオルケットをかけて昼寝をしていたら、知らぬ間にうとうと眠りに落ちていました。ハッと目が覚めると、顔や手足などにうっすらと汗をかいていました。エッ、風邪を引いたかも?と思ってあわてて体温を測りましたが、平熱でした。また、部屋の中が蒸し暑ければ、汗をかいたでしょうが、窓も開け放していたので、蒸し暑さを感じることもなく、吹き抜ける風が心地よかったことを今でも覚えています。そのころの夏は、半世紀後の今と違って最高気温が 30 度に届くか届かないか、だったと思います。

なんで、汗をかいたのだらう? と不思議に思って、寝ながらあれこれと思いめぐらせていました。そして、ひょっと

して、昨日までずっと、毎日午後汗をかきながら練習していたせいかも? 身体は勝手に、今日もこの時間帯になったら激しい運動をして汗をかくのではないかと、順応していったのではないかとという考えにたどりつきました。これが本当かどうかはよくわかりませんが、あり得ない話ではないと思いました。また、これは順応なのか、それとも適応なのでしょう? 今になって思うのですが、人間は、厳しい自然のなかで、このようなことを繰り返しながら、長い長い年月を生き延びてきたのかも? と、想像力をかき立ててくれる出来事でした。

余談になりますが、最終学年の 4 年の時は、舟木一夫さんの「高校 3 年生」が大ヒットしていました。山中湖畔での厳しい夏合宿では、疲れ切った身体を休めるため布団に腹ばいになりながら、皆で「赤い夕陽がグラウンド(元歌は校舎)を染めて、…アアアアアア、大学 4 年生、僕ら離れ離れになろうとも、クラブ仲間はいつまでも～」と、大声をあげて歌っていました。同じ釜の飯を食ってきた私達同期の仲間は、今でも年に 1、2 度集まって会食・歓談をしています。



協会ニュースに会員からの投稿を募集中



協会会員相互の交流の場として、会員の皆様からご執筆頂いた文章を掲載する「AIRIES 随筆」コーナーを設けております。内容は近況報告、趣味、雑感、研究状況、協会業務の改善の提案等、また、法人会員の場合には活動の紹介も含め、協会ニュースの 1 頁程度(約 1,300 字程度)を想定しています。

なお、本協会ニュースは、会員の皆様に配布されると同時に協会のホームページに公開されますので、ご承知おき下さい。

業務日誌



(2026 年 5 月)

5/7(木):推進費制度 戦略研究プロジェクト(I)形成支援検討
会(第1回)を開催(AP 東京丸の内及び Web 会議)

CO2 対策事業 打合せ(環境省)

8(金):推進費制度 PA 行政ニーズ意見交換会(環境省)

11(月):推進費制度 戦略研究プロジェクト(II)形成支援検討
会(第1回)を開催(AP 東京丸の内及び Web 会議)

推進費制度 環境省打合せ(Web会議)

12(火):CO2 対策事業 環境省打合せ(Web 会議)

13(水):推進費制度 PA 行政ニーズ意見交換会(環境省)

14(木):CO2 対策事業 新規採択課題事前打合せ(協会)

CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)

15(金):企画総務部会(協会)

会誌編集委員会を開催(協会及びWeb会議)

CO2 対策事業 新規採択課題事前打合せ(新潟県人
会館)

地球一括事業 環境省打合せ(ウェブ会議)

21(木):CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)

地球一括事業 打合せ(Web 会議)

22(金):令和8年度第1回通常理事会(ステーションコンファレン
ス東京)

25(月):CO2 対策事業 環境省打合せ(Web 会議)

26(火):推進費制度 環境省打合せ(Web会議)

28(木):CO2 対策事業 キックオフミーティングに出席(Web 会
議)

29(金):CO2 対策事業 事前評価ヒアリング(交通)を開催
(AP 東京丸の内及び Web 会議)

地球一括事業 環境省打合せ(Web 会議)

*推進費制度:環境研究総合推進費制度運営・評価等業務

CO2 対策事業:地域共創・セクター横断型カーボンニュートラ
ル技術開発・実証事業

地球一括事業:地球環境保全試験研究費に関する追跡評価、
制度評価委託業務

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS



編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail:airies@airies.or.jp

Homepage:https://www.airies.or.jp

